

学会参加報告

14th International Conference on Shot Peening

慶應義塾大学大学院 総合デザイン工学専攻
小茂鳥研究室博士2年 羽山元晶

私は、2022年9月4日～7日にイタリア・ミラノで開催された 14th International Conference on Shot Peening (ICSP14)に参加し、研究発表を行いました。参加した学会は、ショットピーニングにフォーカスした国際会議で3年ごとに開催されています。本来は2022年の開催でしたがコロナ禍の影響で2年延期となり本年の開催となりました。今回は世界各地の研究者により100件以上の発表が行われており、非常に盛況な様子でした。研究機関からの参加者だけでなく、企業からの発表、参加者も多い点が印象的な学会でした。

今回、私は”Compressive residual stress relaxation behavior of shot peened AISI4140 steel during first cycle of repeated loading”というタイトルで、自身の進めている残留解放挙動に関する研究について口頭発表を行いました。国際会議での発表は3年前に参加した ICM13 以来であり、非常に緊張しましたが、無事に発表を行うことができ、しっかりと自身の研究内容を伝えることができましたと感じています。質疑では、簡単な質問に対してはしっかりと回答できたものの、難しい質問に対してはその場で適切な回答を考えられず、うまく答えられなかったところもありました。この点に関しては、引き続き勉強を続けていき、知識の幅を広げていかなければいけないと感じました。また英語での発表における語学力にも課題を感じ、今後も勉強を続けていく必要性を感じました。

他の方々の発表では、世界の最新の研究の動向を知ることができ、ショットピーニングにおける現状や今後の課題を認識する貴重な機会でした。さらに他の研究には無い自らの研究の重要性、優位性を再確認することができました。また、海外の方のプレゼンを聞くことは研究内容の勉強以外にも、英語での上手な発表を生で見聞きすることによって、よい発表の手本を学ぶことができたこともよい収穫となりました。本学会に参加したことで、自分の成長を感じると同時に、これからの課題も再認識することもでき、今後の研究や自らの成長に対する大きなモチベーションとなる有意義な経験となりました。

今回、貴重な発表の機会を与えて下さった小茂鳥先生、学会先でお会いしお話しさせて頂いた皆様に、この場を借りて心より御礼申し上げます。また本学会参加にあたり「森記念製造技術記念財団」ならびに「小泉基金 大学院生海外渡航費補助」より援助を頂きましたこと、感謝申し上げます。



私の発表の様子(学会公式 facebook ページより)

学会参加報告
14th International Conference on Shot Peening
～観光編～

学会の合間にミラノ観光を楽しむこともできました。ミラノは「ファッションの都」と称されるだけあり、中心地には高級ブランド店が多く、その他にも数多くの洋服店や靴屋などが並んでおり、非常におしゃれな街という印象でした。AC ミランの試合日には、町中にユニフォーム姿の人が集まり、みんなので応援歌を大声で歌っている光景も印象的でした。食事も、ピザやジェラートを始めとして、美味しいものが多く非常に快適な街でした。(トマト、生ハム、チーズなども絶品です。)



ミラノのドゥオーモ



ガッレリア



スカラ座

ドゥオーモは非常に荘厳で美しい建物でした。屋上ではみんなが寝転がったりご飯を食べたりと、自由に思い思いに過ごしている様子が印象的でした。ガッレリアはドゥオーモとスカラ座を繋ぐアーケードです。プラダ本店やルイ・ヴィトン、グッチなど高級ブランドが並び、まさに「ファッションの都」を象徴する雰囲気でした。ミラノ・スカラ座はイタリアオペラの最高峰といわれる歌劇場です。私の滞在中にタイミングよく、コンサートとオペラが上演されており、どちらも楽しむことができました。